

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成27年11月～平成28年3月)

資料6

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
11	16	19	工房ときわ	適応障害・軽度知的障害の方の就労支援について	①就労意欲を持ち、持続していただくために、どのように関わっていけばよいか。 ②他者に対する不平・不満の訴えに対して、どう対応するのがよいか。	①就労意欲を無理に出してもらおうとせず、本人の来れるペース(週2～3回ぐらい)で、できる作業を見つける。 施設によっては対応の限界設定しておくか。 ②本人の愚痴を聞くだけにとどめる。今の状態が性格の範疇か？訪問看護の導入の検討し、病識を持ってもらう。	
12	14	18	うべくるみ園	就労継続支援B型の支援の在り方について	①今の状態(作業中にてんかんの発作で眠気が出る)で、就労継続支援B型の利用を続けた方が良いのか？ ②就労継続支援B型に強く拘っている保護者に生活介護を勧めるアプローチの方法。	①就労継続支援B型の継続は難しいのではないかと。母に了解を得て受診にスタッフも同伴させていただき、事業所での様子を主治医へ伝え、服薬調整等を相談する。医療との調整が必要であれば、市の保健師も関わる。 ②作業のできる生活介護事業所の紹介。完全に生活介護に移行するのではなく、就労継続支援B型と併用しながら様子を見ていく。支援者と母とでケース会議を行い、課題の整理・共有ができないか。	
H28.1	障害支援者交流の集い実施予定にしていたため開催なし						
2	23		はあとけあさんちの相談支援	他害行為があり、卒業後の進路に不安がある自閉症児の方の今後の支援について	①現在の自傷・他害行為についてなかなか落ち着かない状況があるが、どのような相談方法や相談機関があるのか。 ②短期入所施設を卒業後継続して利用は難しいといわれている。卒業後に向け、どのような調整を行っていけばよいか。	①問題行動の対応として医師と服薬について検討してみようか。 ②施設のほうで本人が落ち着く状況があるのであれば施設入所の検討をしてはどうか。 ③短期入所施設が対応できないという原因を確認し、対応策を検討する。 ④専門機関への相談を通じ、問題行動の原因、対応を明確にする。支援者で情報共有し、問題行動の予防を図る。	
3	障害支援者交流の集い実施						

4	20	27名	訪問看護ステーション あん	解離性障害患者とその支援者への支援に苦慮した事例。	<p>①虚言により生活状況や症状が不明瞭な場合、確認方法。</p> <p>②訪問時に自宅に居てもらうための対応。</p> <p>③同居人に病識がない場合の対応。</p> <p>④不穏時の自傷行為を止めるには。</p>	<p>①本人に関わった人、機関から情報収集を行い、現在に至る経緯を整理する。長期的に本人と関わり信頼を築いていく。生活保護担当CWなど行政機関と連携。</p> <p>②必要性を説明する。</p> <p>③同居人との関係も長い目で築いていくことで理解が得られやすくなるか。生活保護担当のCWなど行政機関と連携して介入を。</p> <p>④無理に自傷行為は止めない。受診につなげる。支援会議に精神科病院関係者と連携をする。本人がこれからどう生きていきたいのか。</p>	
5	19	21名	障害福祉課	視覚障害と発達障害があり苦情や暴言により支援に苦慮していたが、入院治療がきっかけで必要な支援が受けられるようになった事例	<p>①発達障害がベースにある方への効果的な対応 対人関係がとれず、暴言があり、集団生活に馴染めないなどあり、在宅サービスの調整や施設入所の調整が困難な場合、どう対応していけばよいか。</p> <p>②近隣とのトラブル起きている場合 地域での在宅生活を維持していくためにはどうしたらいいか。</p>	<p>①担当医に生活状況など情報提供を行い、医療との連携を図る。 生活で改善すべき点(ビールを飲まないなど)を医師から指導してもらうことや薬の調整のためにも情報共有が必要。</p> <p>②生活スキルの向上を図り、自立を促す支援を行う。</p> <p>③本人のストレングスを生かせる場の提供を行う。生活介護や就労の利用など他者との交流の場の提供を検討する。</p> <p>④地域の障害者理解の促進、啓発活動を行い地域との連携を強化していく。</p>	<p>①支援者のスキル向上のための研修</p> <p>②地域への障害者理解の啓発活動</p>
6	19	29名	セルプ南風	突発行動の対応に苦慮している知的障害・発達障害のある方への今後の支援について	<p>①本人の突発的な行動に対応できないこともあり、ヒヤリハットが発生することが頻発している。安全確保の面からも限界があり、家族や相談支援と検討を重ねているがいい方策が見つかっておらず苦慮している。 脱走癖のある利用者の対応。</p> <p>②将来の方向性について。</p>	<p>①対応に苦慮していることを家族へ伝え、気づきを重ねる。医療へ繋がっておらず、家族の気づきから受診へ繋がれば、服薬、入院等の方策が広がる。今後本人が成人することを見据え、家族が過干渉であっても、行き過ぎた問題行動があった際には警察に相談をするなど、社会との連携を持つ。出口を施錠することや、本人を抑えることが虐待と認識されるか？誠心誠意の対応である。事前に家族へ状況を伝えて対応方法を確認し、同意を得ておく。</p> <p>②事業所での様子を家族へ伝える機会をもち、家族の気づきへつなげていく。</p>	<p>①地域の中での連携の在り方</p> <p>②問題行動のある方への対応</p> <p>③虐待の予防 地域理解、家族の支援</p>